

競 技 注 意 事 項

1 本大会は、2018年度 公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則および本大会要項により実施する。

2 競技者の招集について

- (1) 選手招集場所は、本競技場第1ゲート側の外（100mスタート地点後方）に設ける。フィールド競技は各競技場所とする。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、全てその競技の開始時刻を基準とし、下記の通りとするが、出場人数によって変更もあるので、タイムテーブルを確認すること。
競技者係の所に集合し、チェックを受ける。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	招 集 場 所
ト ラ ッ ク 競 技	3 0 分前	1 5 分前	100mスタート地点後方
フ ィ ー ル ド 競 技	4 5 分前	3 0 分前	各競技場所
走幅跳・砲丸投決勝	3 0 分前	2 0 分前	

(3) 招集方法

- ア 競技者は、出場種目の招集開始時刻に、招集場所にて自分のナンバーカードを競技者係に示し、種目名・組・レーンのチェックを受ける。準決勝・決勝の場合は、事前に組・レーンなどを確認しておくこと。（記録速報掲示板の番組編成欄に掲示してある）
- イ チェックを終えた後も勝手に招集場所を離れないこと。移動は全て競技者係の誘導で行う。
- ウ 他種目と兼ねて出場する競技者については、招集は本人のみで、代理人による招集は認めない。ただし、事前にその旨を競技者係及びフィールド審判員に申し出て、競技に参加すること。
- エ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなす。
- オ 四種競技についても、同様とする。（フィールド競技は各競技場所とする）

3 トラック競技について

- (1) 同じ種目でも、組によって招集時刻が異なるので注意する。
- (2) トラック競技の出場者は、自校で用意した腰ナンバーカードをユニフォームの右腰やや後ろにつける。（逆走の場合は左側にも）やむを得ず競技者係で借りたものは、フィニッシュ後、係の指示に従い、返却する。
- (3) 事故防止のため、短距離ではフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走る。
- (4) リレーのオーダーは、1組目招集完了時刻の60分前までに競技者係に提出するものとする。時間までに提出されない場合は、棄権とみなす。
リレーでは、バトンパスが終わったら、自分のレーンのマークをはずすこと。なお、マークは主催者側で準備したものを使用すること。
- (5) トラック競技の準決勝・決勝の走路順は抽選し、記録速報掲示板の番組編成欄に掲示する。
- (6) トラック競技のプラスアルファが、規定数より多いときは、0.001秒以上の差が認められれば、着差ありとして決定する。この結果、まだ同成績がいる場合には、本部での抽選によって決定する。ただし、レーンに余裕がある場合は、同記録者の着差判定は行わず、次のラウンドに進めるようにする。
- (7) 男女1500m決勝は16名で行う。
- (8) 男女800m予選と3000mは、安全面を考え、階段スタートで行う。
- (9) 本大会は、公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則第162条5(C)を適用しない。

4 フィールド競技について

- (1) 走高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。（当日の天候などによる変更有り）
男 子 走高跳（練習1m45） 1m50(以後5cm上げ) 1m70以後3cm上げとする
女 子 走高跳（練習1m25） 1m30(以後5cm上げ) 1m45以後3cm上げとする
- (2) 四種競技の走高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。（当日の天候などによる変更有り）
男 子 走高跳（練習1m35） 1m40 1m45(以後3cm上げ)
女 子 走高跳（練習1m15） 1m20 1m30(以後3cm上げ)
- (3) 棒高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。（当日の天候などによる変更有り）
2m40開始 — 2m60 — 2m80(以後10cm上げ)
- (4) 走幅跳と砲丸投については、予選を行う。予選通過標準記録は、下記の通りとする。
男 子 走幅跳 6m55 砲丸投 13m00
女 子 走幅跳 5m45 砲丸投 12m50
- (5) 走幅跳、砲丸投における計測ラインは、下記の通りとする。（当日の天候などによる変更有り）
男 子 走幅跳 5m00 砲丸投 7m50
女 子 走幅跳 4m00 砲丸投 7m50
- (6) 予選通過標準記録を越えた者が12名に満たない場合は、上位から12名および12番目と同順位の競技者を決勝に出場させる。
- (7) 四種競技について、トラック競技はプログラム記載順で行い、フィールド競技の試技は3回とし、指定された順番で行う。ただし、最終種目における組み合わせは、それまでの得点の順に番組を編成する。
- (8) 走幅跳の予選および走高跳は各1・2ピットを使用する。また、走幅跳の予選においては、出場者数により2組の時間差スタートすることもあり得る。

5 その他

- (1) 8位までの入賞者には賞状を授与し、優勝者にはバッジを授与する。
- (2) 表彰は、決勝終了後ただちに行うので、3位までに入賞した競技者は、そのままエントランスホールに集合すること。4位以下の競技者は、エントランスホールまで取りに来ること。他種目と重なって出られないときは、代理の者を出すこと。
- (3) 競技者以外の者は、絶対に競技場内に立ち入らないこと。(特に、本部前、フィニッシュ付近は通行禁止とする。)
- (4) ウォーミングアップは、補助競技場で行い、安全に留意させること。
(主競技場は1日目、7:00~8:15まで、2日目、7:00~8:30まで開放する。)
- (5) リレーの練習で使用したマークは、各団体に責任をもって処分する。自分のゴミは、持ち帰ること。(ペットボトルや缶も必ず持ち帰ること。ゴミ箱は使用できない。)補助競技場も同様とする。
- (6) スタート・フィニッシュ付近では、静かにする。
- (7) 200m以上の競技では、準決勝は行わない。また、200m、400m、800mにおいては、A決勝・B決勝の2つの決勝を行う。
(Aからタイムの速い順に番編を行う。順位の決定はA・B決勝タイムレースとする。)なお、先にB決勝から行う。
- (8) 1500m以上の競技では、スタートから次に示す時間(当日の天候などによる変更有り)まででレースを終了する。
また、1500mでは1100m地点、3000mでは2600m地点において制限時間を設け、その時間内に各地点に到達しない者もレースを終了とする。
<打ち切りポイントと制限時間>

1年男子1500m	6分00秒(1100m	4分20秒)	2・3年男子1500m	5分30秒(1100m	4分00秒)
共通男子3000m	11分00秒(2600m	9分30秒)	共通女子1500m	6分00秒(1100m	4分20秒)

(各組12名は残す。)
- (9) 競技の進行上、競技開始時刻などに変更が出る場合もあるので、放送を聞きもらさぬように注意すること。
- (10) 競技場および補助競技場に練習用の個人器具を持ち込むことは禁止する。(棒高跳のポールを除く)
- (11) 撮影禁止エリアを設定しているので注意すること。
- (12) 主競技場のメインスタンド、メインスタンド裏はテントの設置は禁止とする。テント等を設置する場合は、サイドまたはバックスタンドは可とするが、風で飛ばされたりしないよう十分注意すること。(雨天などで対応が必要な場合は、当日指示します。)
- (13) 競技場に商品名のついた衣類やバッグ類等を持ち込む場合、「競技会における広告および展示物に関する規程」を遵守すること。競技役員から指摘・指導された場合は、その指示に従い、必ずテープ等を貼って隠すこと。
- (14) 競技中の事故については、主催者で応急処置をするが、以後の責任は負わない。
- (15) 盗難防止のため、貴重品は各自で保管する。また、スタンドでの盗難・置き引きには十分注意すること。

6 補助競技場に関して

- (1) 補助競技場の開放は、8:15~16:30までとする。開放中は、事故のないように各自、各学校で注意すること。
- (2) 補助競技場は、安全確保のため、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投のピットは開放しない。
- (3) 1、2レーンは周回レーンとし、ホームストレートの3、4レーンはスタートダッシュレーン、5、6レーンは100mHレーン、7、8レーンは110mHレーンとする。バックストレートは3~6レーンをリレー・短距離レーンとする。(バックストレートにはスターティングブロックは設置しない)
- (4) 外周のフェンスに寄り掛かったり、乗り越えたりする行為は禁止とする。補助競技場にテントなどを設置する場合は、フェンス外側の芝生部分(斜面)の定められた場所のみとする。(表紙裏参照)
- (5) 補助競技場の芝生部分は、体操やJOG、ドリル、流しなどの練習は可とするが、スパイクでの練習や用具を使った練習は禁止する。
- (6) 補助競技場には、放送が入らないので、十分注意すること。
- (7) 補助競技場への出入りは、100mスタート後方のゲート、1カ所のみからとする。
- (8) 私物の持ち込みは、安全上の理由で禁止とする。競技者・監督・コーチ以外の立ち入りを禁止する。補助競技場担当係は設置しないので、事故のないように注意して使用すること。

7 全国大会(第45回全日本中学校陸上競技選手権大会)への出場について

- (1) 本大会及び第49回北海道中学校陸上競技大会で全国標準記録を突破した者については、全国大会の出場権を得る。
- (2) 四種競技については、6月30日、7月1日の札幌市中学校体育連盟陸上競技選手権大会で全国標準記録を突破した者も全国大会の出場権を得る。
- (3) 追い風参考記録は、全国標準記録の対象にならない。